高校３年、秋の運動会

この運動会を最後に女子のブルマ姿を見納めになった。

運動会終了後、体育委員のオレは体育倉庫に椅子やテントを片付ける作業をはじめた。

家に帰って、目の裏に焼き付けた女子のブルマ姿をオカズにすることだけが励みだった。

　下側室で運動靴に履き替えるときのブルマ姿

　準備体操のときのブルマ姿

応援に夢中になって立ち上がるブルマ姿

おしりに食い込んだブルマをなおすしぐさ

完璧に記憶し、思い出しただけで股間が反応した。

蒸し暑い体育倉庫に足を踏み入れると、同級生で同じ体育委員の桃野舞がいた。

美しい黒髪のボブカット、積極的な性格で成績優秀スポーツ万能の美少女であるにもかかわらず、

恋愛経験ゼロで校内校外に熱狂的なファンがいる。

もちろんオレは一年のときからベタ惚れで、毎日のオカズの第一候補だった。

パラレルワールド

そして、同じ同級生である高野真琴、白川ナミ、南陽子の３人もブルマ姿でそこにいた。

みな恋人にしたい候補ベスト５に入る美少女だ。

舞「ちょっと、田中君！このデジカメ見てよ！卒業アルバムに載せる写真なのに、私たちの後ろ姿ばかりじゃない！」

田中「え？オレはカメラの係りじゃねぇよ」

真琴「言い訳無用！」

合気道二段の真琴に手首をつかまれ、オレはその場に投げ倒された。

舞「みんなのおしりの写真ばかり撮る変態は許さない！おしおきするわよ」

そう言うと舞はおれの胸の上に馬乗りになった。そして右腕には真琴、左腕にはナミがそれぞれ座り込みオレの体の自由を奪った。

胸と両腕に柔らかくあったかいおしりの感触を感じた。Ｍっ気のあるオレはこの状態を少しの間だけ楽しもうと思った。

陽子「それじゃ　私からいくね」

陽子はオレの顔の上に仁王立ちにまたがり、和式トイレを跨ぐようにおれの顔の上にしゃがみ込んだ。

陽子「おしおきしてあげる」

顔でおしりの感触とほのかな匂いを感じた瞬間

ブッ　プッ　プスッ

小さいオナラがオレの鼻先で炸裂した。小さいにも関わらず濃厚な卵の腐った匂いがした。

陽子「どお？くさかった？」

ナミ「あっ　私おならが出そう」

オレの左腕に座っていたナミが立ち上がり、陽子と入れ替わった。今度はナミがオレの顔を跨ぎ正座の形で顔の上に座り込んだ。

陽子のオナラで息苦しくなっていたのでナミは少しおしりを浮かせてくれた。

しかし顔とおしりの隙間はわずか数㎜だったので、呼吸するとナミの股間からおしっこの匂いがした。

ナミ「あっ出る！」

スッ　スゥゥ～～ッ

また卵！すかしたオナラからは粉っぽい感じの濃い卵臭がオレの鼻をおそった。

田中「げほっ　もう降参だ許してくれ！」

ナミ「だめ　私たちのおしおきはこんなもんじゃ終わらないわよ」

真琴「次、私ね」

右腕に座っていた真琴とナミが入れ替わった。

真琴はオレの顔の上に座り込むと、両足をそろえてピンとまっすぐ前になげだし、おしりに全体重をかけた。

柔らかいおしりがオレの顔に完全に密着し、声も出せない。必死に息をしようとしてもくさい尻臭を感じるだけだった。

真琴「いくわよ」

プッーーーー！

今度は古漬けの漬物。腐った野菜系だった。ぬか漬け、奈良漬け、かす漬け、たくあんをまとめて腐らせたような匂い。

田中「うぐっ　うぐぅぅ　むぐぅぅぅ」

オレは真琴のおしりの下で必死にもがいたが、真琴はおしりをどかせてくれない。

真琴「ほら全部吸い込みなさい。こういうこと一度やってみたかったのよね　次は舞ね」

真琴が舞と入れ替わるときだけが呼吸が許された。

舞「よーいしょ」

舞はオレの鼻と口の間におしりの穴が当たるようにしゃがみ込んだ。当然オレの鼻と舞のおしりの穴が直結状態になった。

舞はオレの鼻のてっぺんにおしりの穴をこすりつけるように腰を振りはじめた。

舞の濃厚な肛門臭がオレの鼻をおそった。

憧れの女の子の肛門臭を嗅がされ、オナラまでも吸わなければならない状況に嬉しいのか悔しいのか混乱した。

舞「あん　来たみたい」

ブッ　ブッ　ブゥゥッ　ブッーーー！！

肛門のすぐ内側に大便が詰まっているかのような、強烈な大便臭。

同級生のおしりをオカズにしてきたことを後悔するほど4人のおしりは凶悪なものに感じた。

田中「げほっ　げほっ　げほっ　もう許してくれ頼む」

オレは必死に懇願したが、次の瞬間信じがたい言葉を聞いた。

舞「ダ～メ　まだ一周目じゃない　もう一度陽子からよ　最低10周は耐えてね♪」